



わたしたちが目指す 「男女共同参画社会」とは

今月も意識調査に寄せられた自由記述から、ご意見をご紹介します。各年代で共通して見られたのは「男女共同参画は、男女の差を認めず、人間を中性化するものではないか」という趣旨のものです。

○最近女性が地位向上を理由に、必要以上に男性っぽくなっている (20代・男性)

○子どもが産めるのは女性だけであって、男女が平等になるのは不可能だと思う (30代・女性)

○男と女は同じではないので平等である必要はない (40代・男性)

○法律的に平等を推進していくのは良いことですが、あまりにもそれが進んでいくと、本来人間の性が持っている特性を無視した、悪平等的なものまで進んでいくのではないかと (50代・男性)

★中性化を目指しているのではありません

わたしたちが目指す「男女共同参画社会」は、男女の生物学的な性の違いまで否定するものではありません。性差は当然のものとして認めた上で、一人ひとりの個性を尊重し、多様な選択を認め合い、性別にかかわらず個人の能力を十分に発揮できる社会を目指すものです。ですから、男女共同参画によって人間が中性化されるという考えは、誤りです。

★その姿が不自然だと感じることをなくしたいのです

例えば公的機関のパンフレット中に、男性のエプロン姿や女性の作業服姿が描かれることがあります。しかし、これは男女の逆転や中性化を求めるものではありません。多様な生き方ができることが重要であり、男性であれ、女性であれ、生き方を一つの類型にはめることについて、問題提起をしているのです。



★真の男女共同参画社会とは

また、現代のように高度に発達した人間社会では、個人の資質や能力の形成が、生物学的特徴による影響以上に、環境や学習による社会的・文化的影響が大きいと考えられています。一人ひとりの人間の能力や個性は多種多様です。それらが尊重され、発揮できる社会が「男女共同参画社会」なのです。

「おしゃべりさん」は白根学習館ホームページでもご覧いただけます

(<http://pc2.gakushyukan-shirone-unet.ocn.ne.jp>)

TOPICS



三月十日、庄瀬小学校の五年生三十五人が、サケの稚魚約一万匹を学

サケを通して信濃川の環境を考える 庄瀬小学校

校近くの信濃川に放流しました。今回放流された稚魚は、昨年十一月から加茂川漁協(中林組合長)の協力で、子どもたちが卵から育ててきました。また放流までの取り組みとして、信濃川の環境を調査。ゴミだらけの岸と、汚れた水質に驚いた子どもたちは、ゴミ拾いなど川をきれいにする活動や、水を汚さないために、どんなことが有効かなどの研究を行ってきました。放流した後、子どもたちは「一四年後、サケが少しでも多く帰って来てほしい」と話してくれました。



商店街を楽しもう

ふゆまつりINしろね

二月二十二日、白根商店街とミニパークを会場に、「ふゆまつりINしろね」が行われました。これは、白根商店街の魅力を見せたいと、白根地区公民館や白根市商店会連盟などで構成する「ふゆまつりINしろね実行委員会」が、昨年から行っている催しです。メイン会場のミニパークでは、もちつき大会や豚汁のサービス、大抽選会などが行われ、多くの人でにぎわいました。また夕暮れになると、商店街をキャンドルでライトアップし、訪れる人を楽しませていました。

まちの話題

堂々発言、子ども議員

白根市子ども議会

次代を担う小学生に、市政や市議会を身近に感じてもらうと、二月二十八日、市では初の試みとなる子ども議会を開催しました。議員を体験したのは、白井小学校と白根小学校の六年生、各二十四人。社会科や総合学習などを通じ、市政について感じたこと、疑問に思ったことを発言しました。議会は二部構成で、各学校で選出した正副議長の進行の下、行われました。



白井小学校は、総合学習「白井発エコ物語」未来に向かって環境宣言!」で得た情報に基づいた、提案・質問に集中。「水生生物を守るため、川のそばに木を植える計画(ビオトープ計画)はないか」など、子どもたちは白根市の環境を救おうと、真剣に発言していました。



続いて白根小学校は、議会に向けて各クラスで取ったアンケートを基

に提案と質問をしました。ここでは、学校の問題から、市町村合併問題まで幅広い意見が出されました。中には「合併すると給食の味が落ちないか」など、子どもの視点ならではの発言もされました。その後の講評で、市議会議長・副議長が、子ども議員の堂々とした発言、白根市を思う姿勢などを「頼もしい」と高く評価しました。終了後、ある児童は「市長が丁寧に答えてくれてうれしかった。多くの人のおかげで、いい体験ができた」と、興奮がさめない様子。また別の児童は「みんなで白根の環境のことを考えてきた。聞きたいことが聞けて良かった。中学生になって、こういう機会があったら、またよく調べて質問したい」と意欲的に答えてくれました。市は、この子ども議会でも出された小学生の素直な声を、今後の市政に生かしていきます。

254点の力作が展

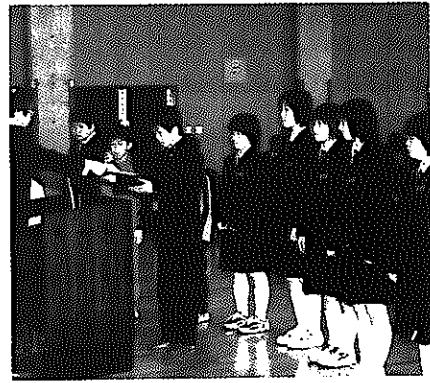
中ノ口川さわやか交流展



三月二日と三日、「中ノ口川さわやか交流展」が白根学習館で開催されました。これは中ノ口川沿線の白根市、味方村、月湯村、中之口村の住民からなる「中ノ口川さわやか交流展実行委員会」と「新潟地域広域市町村圏協議会白根ブロック(同四市村)」が主催したもので、今年で六回目を迎えます。この交流展では、日本画・洋画・書道・写真・美術工芸の五部門に二百五十六点の作品を展示。会場を訪れた人たちは、興味深そうに力作を鑑賞していました。

功績をたたえ、169人を表彰

平成14年度 体育功労者等表彰式



二月二十三日、カルチャーセンターで、白根市体育協会主催の平成十四年度体育功労者等表彰式が行われ、169人が表彰を受けました。その後行われたスポーツミニ講演会では、横土伸さん(新潟市立小針中学校教諭)が、陸上部の指導者という立場で講演を行いました。多くの選手を各種大会で優勝に導いている横土さん。「どでかい夢」に向かって、「We are NO.1」と題し、生徒の限らない可能性を信じて共に歩む大切さや、努力する心を育てる重要性を熱く語ると、出席者はメモを取るなど、熱心に聞き入っていました。